命の大切さや感謝の心を学ぶ体験活動

～一人ひとりができることを探そう～

教科・領域　総合的な学習の時間　　周南市立岐山小学校３・５・６学年

キャリア教育の観点

この取組は、命の大切さや働く人たちへの感謝の心に気づかせるために、２つの校外学習や大人に学ぶ取組を取り上げ、自分たちの活動を振り返りながら、よりよい生き方、将来の夢を育み働くことの素晴らしさを実感させる取組です。

【人間関係形成・社会形成能力】【課題対応能力】

事前準備・地域との連携

この取組は、３・５・６年生の総合的な学習の時間における活動において、働く人たちや奉仕活動に取り組んでいる人たちとの交流活動を通して、人との関わりを大切にしながら、命の大切さや感謝する心を育てることをねらいとしている。そのため、子どもたちに出会わせる外部講師、ボランティア等の選定が重要となる。

そこで、人の命を預かる医師の中でも、へき地医療や震災ボランティア等の人の喜ぶ顔が見たいという思いで活動し、活躍しておられる方を選ぶよう心がけた。その際、「やまぐち教育応援団」に登録・掲載されている医療機関等を参考にした。

次に、ふるさと学習を進めている本校では、第３学年で校区内にある施設、名所旧跡を巡る「岐山ふしぎ大発見」の取組を行い、それらをさらに詳しく調べていく「岐山再発見!!」の取組を第５学年で行っている。

これらの活動を推進していく上で地域との連携を取り入れることとした。本校の見守り隊（コミュニティ推進協議会の見守り隊及び全保護者で構成）は、登下校の見守り活動を中心に活動しているが、学校運営協議会を通じ、校外学習における見守り活動をお願いすることとした。さらに、周南市役所の観光課に観光ボランティアの方々を派遣していただくようお願いした。この方々は、周南市をできるだけ多くの方に知っていただきたいという思いから熱心な活動をしておられる団体であり、その支援が学習への強い動機付けとなった。

いのちと向き合う医師に学ぶ

平成２４年１１月５日（月）の３・４校時、山口県総合医療センターへき地医療支援部に勤務しておられる２名の医師に６年生を対象としてご講話をいただいた。

医師への夢を追い続けた生き方や命の大切さ、医師としての仕事の素晴らしさ、へき地医療の体験、震災ボランティアとしての取組等について、ロールプレイングや写真、動画を交え、熱く語っていただいた。健康の大切さ、家族や地域の方々への感謝、医師としての夢や絆の素晴らしさを学ぶことができた。

子どもたちの感想の中には、以下のようなものがあった。

・　小学校４年生の時、やんちゃだった先生が変わっていくお話はそのまま自分がなりたい「自分への第一歩」だったことが分かった。

・　なりたいと思った職業についたことは、すごい。また、それにとどまらず、何をしていくべきかを模索し、医師の取組を伝える活動までされていることは、尊敬すべき生き方と思った。

・　本気で患者さんと向き合っている気迫を感じた。

岐山再発見!!（５年）、岐山ふしぎ大発見（３年）

５年生は、平成２５年６月３日(月)～７日(金)に市の観光ボランティアの方々を講師に迎え、校区内調べ、史跡巡りを行った。地域を２コースに分け、児童が両コースを体験できるよう、各学級２回に渡って校外学習を計画した。その際、コミュニティ推進協議会の見守り隊と保護者の方にも協力をいただいた。

子どもたちは、普段何気なく通っている校区内の道端等にある石碑や神社について、観光ボランティアの方々の説明を熱心に聞き入り、メモをとっていた。子どもたちは、身近な所に歴史的にも貴重な資料や言い伝え等があることに気付くことができた。

移動時には清掃活動も行った。この取組は、地域に支援していただいていることに対する感謝の意を表すために今年度から行っているものである。見守り隊や保護者の方々には、子どもたちが、ゴミを拾うことに夢中になり車等の周囲に対する意識が薄れることを懸念して、安心・安全に向けた見守りをしてもらったり、ごみ袋を持っていただいたりした。

３年生は、平成２５年６月３日(月)に校区内を４コースに分け、希望のコースを散策した。周南市文化会館、ＫＲＹ山口放送等の施設や「まどみちお」さんの石碑等を見て回った。なお、この活動は、担任と見守り隊と保護者で行い、５年生同様清掃活動を行った。

なお、これらの活動の後には、参加し、支援していただいた方々にお礼の手紙を書き、感謝の意を表した。

事後の指導から

これらの活動を計画していく上で大事な点は、活動そのものよりも、その活動を通して子どもたちがどのように感じ、今後の自分にどう生かしていくかが重要となる。つまり、「一つの出会い」から得た学びを点で終わらせるのではなく、「生活」という線や面につなげていくことが重要なポイントであり、そのことによってそれが支えとなり成長を促すことが必要となる。そのために以下のことを中心に事後で振り返り、その後の指導に配慮している。

①　出会った大人の「素晴らしい」面が、しっかり子どもたちに印象深く残り、あこがれや将来の夢と結びついていくよう、担任教師において将来に「つなぎ」、将来を「えがく」指導に心がける。

② その子のよさや修正点を、「生活」という線や面につなげていくことと照らし合わせ、今の自分を振り返るための一つの基準にさせる。したがって、その後の指導の際、この基準を互いに確認しながら児童の成長に価値付けをしていくこととした。

考　察

子どもたちは、多くの人々との出会いの中で感じた感謝の気持ちを手紙に書くことにより、人や社会のために働くことの尊さや感謝の気持ちを更に高めることができた。３・５年生は、活動後に、お世話になった観光ボランティアガイド、見守り隊、保護者等にお礼の手紙を書いて渡している。この中で、自分たちのために暑い中参加された多くの方々から、教わったり、助けていただいたりしたことに対し、感謝の言葉を述べていた。また、校外活動中に自分たちが行った清掃活動を通して、お世話になっている方々や地域に対して感謝の気持ちを表した。そして、活動後には、知り合った方々に対して、地域で出会った時に気持ちのよい挨拶ができるようになってきた。

９月には、５年生の活動でお世話になった観光ボランティアの一人が学校に来校された。夏休み中に２名の５年生の子どもと各所で出会い、６月の活動の時のお礼を言われ、とてもうれしかったことについて話をされた。

ここで取り上げた活動では、コースの設定、支援者との配置や連携等を立案していくが、諸団体との連絡調整を行う際は、早めに計画を立て、綿密な打合せが必要であることがわかった。

一連のキャリア教育の取組を通して、年度末の卒業アルバムに次のような一節を見つけることができた。

- ぼくは、１１月の講演で「はっ」と気づいたことがありました。「医者という職業とは・・・・・・」というところでした。「いのちと向き合う」、「患者の人生と向き合う」ということから、医者になるっていうことは、大きな「責任感」をもつことなんだなと思いました。と同時に、それ以上の「やりがい」もあるんだということも分かりました。「医者」という存在がどれだけ大切であるかを知ることができました。（A君）
- 「医者」とは「人のいのちと向き合い、いのちを預かる責任ある仕事」だと思いました。話を聞いて今までの自分を振り返るよい機会となりました。だから、ぼくは今、絵や持久走等、いろいろなことに挑戦しています。自分の中にある可能性をこれからいっぱい引き出していきたいです。（B君）

おわりに

本校のキャリア教育の推進に当たっては、体験活動を重視して、家庭・地域・産業界等との連携協力体制の下、人との心の交流を中心に進めて行きたいと考えている。そのためには、学校運営協議会を中心として地域との関わりを深め、地域人材の確保に向けた整備を今以上に進めていく必要がある。また、「やまぐち教育応援団」の登録企業や官庁に目を通し、適材適所の外部講師の選定、来校依頼を進めていく必要がある。

また、活動実施後の振り返りを行いながら、その後の子どもたちの成長をしっかり見守っていくことを確実に行っていきたい。